

「小児重症A群溶血性レンサ球菌感染症に関する全国調査の実施」

ご協力のお願い

現在、当施設は、千葉大学真菌医学研究センターの倫理審査委員会の承認を受けた「小児重症 A 群溶血性レンサ球菌感染症に関する全国調査の実施」に関する研究を協力医療機関として実施しています。本研究への協力を望まれない方は、その旨を主治医までお申し出下さいますようお願いいたします。

1. 対象となる方

2019年1月1日から2024年3月31日までの5年3か月間に、本医療機関で治療した重症A群溶血性レンサ球菌感染症診断を受けた18歳未満の方

2. 研究課題名：

「小児重症A群溶血性レンサ球菌感染症に関する全国調査」

3. 研究実施機関：千葉大学真菌医学研究センター感染制御分野

(研究代表者：石和田稔彦 研究担当者：多田歩未)

施設名 (太字が基幹施設、枠内細字がその連携施設)
北海道大学病院 市立札幌病院 王子総合病院 KKR 札幌医療センター 北見赤十字病院 手稲溪仁会病院
札幌医科大学附属病院 旭川医科大学病院 北海道立子ども総合医療・療育センター 旭川厚生病院 名寄市立総合病院 北海道社会事業協会富良野病院 網走厚生病院 遠軽厚生病院
福島県立医科大学付属病院 星総合病院 公立相馬病院
新潟大学医歯学総合病院 新潟市民病院
宮城県立こども病院 東北大学病院 東北労災病院
東京都立小児総合医療センター
国立成育医療研究センター
千葉県こども病院 千葉大学医学部附属病院 千葉市立海浜病院 東京女子医科大学八千代医療センター 帝京ちば総合医療センター
埼玉県立小児医療センター
慶應義塾大学病院 川崎市立川崎病院 国立病院機構 栃木医療センター さいたま市立病院 東京都立大塚病院 国立病院機構 埼玉病院 国立病院機構 東京医療センター 横浜市立市民病院

SUBARU 健康保険組合 太田記念病
順天堂大学医学部附属順天堂医院 順天堂大学医学部附属浦安病院 社会福祉法人 賛育会病院 順天堂大学医学部附属練馬病
聖マリアンナ医科大学病院 聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院 川崎市立多摩病院
獨協医科大学病院とちぎ子ども医療センター・周産期母子医療センタ 群馬県立小児医療センター
藤沢市民病院 横浜市立大学附属市民総合医療センター 神奈川県立こども医療センター
あいち小児保健医療総合センター
名古屋大学医学部附属病院 江南厚生病院こども医療センター
長野県立こども病院
藤田医科大学 江南厚生病院 刈谷豊田総合病院 豊川市民病
国立病院機構 三重病院 三重大学医学部附属病院
金沢大学附属病院 国立病院機構 金沢医療センター
兵庫県立こども病院 兵庫県立尼崎総合医療センター
奈良県立医科大学 奈良県総合医療センター 星ヶ丘医療センター 奈良県西和医療センター 八尾市立病院 大和高田市立病院
公益財団法人 田附興風会医学研究所 北野病院
大阪市立総合医療センター小児医療センター
川崎医科大学附属病院 岡山大学病院 倉敷中央病院 川崎医科大学総合医療センター
愛媛大学医学部附属病院 愛媛県立新居浜病院
福岡市立こども病院 九州大学病院 久留米大学病院 福岡大学病院 産業医科大学病院
沖縄県立南部医療センター・こども医療センター 沖縄県立中部病院

4. 研究の目的と方法：

A群溶血性レンサ球菌は小児の咽頭炎の原因菌として一般的ですが、ときに膿胸や関節炎、毒素性ショック症候群、壊死性筋膜炎などの重症感染症をきたします。しかし、過去に日本国内で小児に焦点を当てた重症A群溶血性レンサ球菌感染症の大規模な調査をされたことがなく、その実態は明らかになっていません。

COVID-19の規制期間中、A群溶血性レンサ球菌による感染症は減少していましたが、近年重症A群溶血性レンサ球菌感染症が増加傾向にあると世界各国で報告されています。日本の成人の報告からも同様の傾向が伺われますが、小児例に焦点を当てた報告はありません。

今回私たちは、日本国内における小児重症A群溶血性レンサ球菌感染症の実態を調査するとともに、COVID-19パンデミック前後の疫学的な動向を追うことを目的とした調査を行うことになりました。全国の主な医療機

関からCOVID-19流行以前から重症A群溶血性レンサ球菌感染症の診断で治療された方の情報を収集し、以下の情報を各医療機関の医師よりWeb上のパスワードで管理されたデータベースに登録していただき、千葉大学真菌医学研究センターで解析いたします。

収集し研究に利用する情報：

性別、発症時年月齢、バイタルサイン・症状、先行エピソードの有無、GAS感染症の家族歴、GAS感染症の所属集団内での流行の有無、入院時の血液検査、GASが分離された材料と分離同定法、感染症の診断名、治療内容・期間、入院・退院日、ICU滞在期間、転帰、劇症型レンサ球菌感染症届出の有無：カルテから収集するデータは、氏名・カルテIDを削除し、研究用のIDを付与して、特定の個人を容易に識別できないように加工をして利用します。氏名と研究用IDを一致させるための対応表は、院内で厳重に保管され、千葉大には提供されません。また、本調査のために、新たに検査や治療を行うことはありません。

試料・情報の管理について責任を有する者：千葉大学真菌医学研究センター感染制御分野 石和田稔彦

利益相反について：

利益相反とは、外部との経済的な利益関係（資金提供など）によって、研究データの改ざん、特定企業の優遇など研究が公正かつ適切に行われていないのではないか（企業に有益な結果しか公表されないのではないか）と第三者から懸念されかねない事態のことを指します。本研究の計画、実施、発表に関して可能性のある利益相反はありません。

お問い合わせ先：

本研究のご自身に関することに関しては、主治医にご相談ください。

本研究の内容に関するお問い合わせは以下までご連絡ください。

国立成育医療研究センター 感染防御対策室 大宜見 力（担当者氏名）

住所：〒157-8535 東京都世田谷区大蔵2-10-1

電話：03-3416-0181（内線：7764）